



自衛官を志望した理由

高校3年生のときに「自分は人のために何ができるのか」を考えていました。その頃、知人から、陸上自衛隊の話聞いて、平和を愛する心優しい人たちを知り、この日本国民の生命・財産を守るという崇高な職業こそ、誇りを持てる職業だと思い入隊しました。

また、高校在学中での部活動のマーチングバンドを生かし、自衛隊で音楽活動もやってみたいということも入隊した理由の一つです。

変わった意識

自分の身の回りのことは、両親が何でもやってくれていたのですが、入隊後は、当然自分のことは自分でしなければならず、入隊当初は目の前で精一杯になり、戸惑っていました。

寺村 譲治さん

今年入隊した大津町出身の隊員
第8特化連隊 新隊員教育隊自衛官候補生

しかし徐々に集団生活にも慣れ、今では身の回りの整理・整頓や同期に対しての心配りもできるようになり、協力して何でもできるようになりました。今まで時間にルーズだった私が、今では常に時計を見て行動するようになったことも大きな「成長」だと思います。

今後の抱負や意気込み

7月からの特技課程教育は第16普通科連隊（長崎県大村市）で行われるので多少の不安はありますが、新しい同期と協力し合い、どんな困難な壁も乗り越えていこうと思っています。

部隊配属された後には、さらに自身を鍛えていこうと思います。そのためには、一日一日を大事にし、体力練成に努め、勉学に励み、教養を深めて立派な自衛官になれるよう一生懸命訓練などに頑張りたいと思います。



自分で成長していくのが分かる 親はいつでも子ども成長を喜ぶ

根性のある息子がさらに男らしく

「根性がある息子ですね」と修一さん、とくみさんは譲治さんの印象を語った。学生時代は、吹奏楽部に所属していた譲治さん。午前5時には学校に行き、午後11時に帰ってくるという部活に明け暮れた毎日だった。それでも休むことなく、家から通い続けたのは、彼の気質だと話す。部活で部員と活動していたことが、仲間意識の向上につながっているのだろう。家を離れ、たまに帰ってくる譲治さんは、そのたびに「男らしく、意識を持って頑張っている」表情に

なっていった。「全てを含めて彼にとって良かった」と修一さんは笑った。自衛隊に入隊する日、譲治さんは両親にそっとメモを渡した。そのメモには「ありがとう」の言葉が書いてあった。それだけで二人はとてもうれしかった。子どもの成長を見るだけでも親はとてもうれしいもの。最後に二人は、「これからもっと成長して、家族を大切にしてほしい。夢を諦めずに頑張ってください」と譲治さんにエールを送った。

寺村譲治さんの父と母
寺村 修一さん
とくみさん(室)



自衛隊の災害支援活動

自衛隊の主な災害派遣時の活動は、陸上自衛隊ではヘリコプターによる空中からの偵察をはじめとして、負傷者などの捜索・救助、応急医療、入浴・給水・給食支援など、多様な活動を実施しています。

そのために日頃の準備として、災害派遣即応部隊を災害発生時に命令を受けた後1時間以内に出動できるよう24時間体制で準備をしています。その他にも県内の市町村が実施する防災訓練や各種会議などに参加し、行政・警察・消防や関係団体との連携を常に保ち、日頃から即応体制を整えています。

自衛隊では、災害派遣、地震防災派遣、原子力災害派遣を命ぜられた部隊の自衛官に対して、その災害派遣活動などが効率的に行われるように権限が認められています。災害派遣時の権限の一例として土地建物などへの立ち入り、立ち入り制限や損壊道路の応急補修

などがあり、こういった災害派遣時の自衛隊の権限についてご理解いただけたらと思っています。

被災地で 日頃の防災意識

被災地では、私たちも地元の皆さんと同じ生活環境であり、衣食住全てにおいて苦労しました。健康管理、入浴やトイレなどの衛生面は特に大変だと感じました。

私たちは、日頃から防災についての関心や知識を持って、避難経路や避難場所の確認をするなどの意識面と、持ち運びが可能なラジオ、懐中電灯、非常用食料などを用意する物品面の、両方の備えが必要だと感じました。

国を守ろうとする気持ち

自衛隊隊員は、自己犠牲と勇気そして使命感を持って活動すべきだと思っています。私たちの存在意識は「ことに臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努める」にあると思います。地域社会への

献身的な行動とは、国を愛し守り抜く使命感と、身を置いて任務を完遂する自己犠牲の精神と良心から発する正義を貫く勇気が必要だと思っています。

愛でつながるときぎずなを

そして、「愛」という気持ちですね。それが大前提だと思っています。隊員にも伝えたいことでもあり、国民の皆さんにも知ってほしい大切なことだと思います。

私は、一指揮官としてこの第2中隊を愛しています。その中隊のために「身を捨ててでもこの中隊を守ろう」という自己犠牲の精神があると思います。この隊と隊員全員がわが子のようなものですね。「他人を思いやる気持ち」を大事にしています。信用してもらえ人間になり、使ってもらえる人間になるには、教育が大事です。中隊としての伝統や基盤となるものを先輩が後輩を教育していく。そのために日頃から努力しています。

その努力は生半可なものではありません。連綿と続くこの伝統を大事にすることが、意思をつなげていくことになります。「人は、人によって、人となる」という言葉があります。人が基盤であり、基礎です。一人一人を親の気持ちになって教育しています。教育者が、涙を流しながら教育している場面も良く見受けられます。これからも、心のつながりやきずなというものを隊員みんなに伝えていきたいと思っています。

陸上自衛隊 第八師団 第四十二普通科連隊 第二中隊 中隊長

大野昌洋さん



自分を衛るは 人を守る。

自分を衛るは 人を守る。

愛を持って伝統を紡いでいく
人は、人によって、人となる